

第2回 研修会「教育講演会」

1 日時 2025年6月21日(土)13:30~16:00

2 会場 八千代市教育委員会庁舎

3 テーマ 「郷土の歴史と教育」

4 講師 千葉英和高等学校
小林 弘治 先生



「郷土の歴史と教育」

小林 弘治

I “教育”の視点で語る「八千代市の子どもたちに伝えたい八千代市の歴史」

1 “教育”の理解 —郷土の歴史を“教育”の視点でみることの意義とは

「そもそも自国の歴史を学んでいく上で大切なことは、“歴史”を積み重ね、創り上げてきた先人たちの努力や工夫、苦悩や喜びを、わがこととすることから、先人たちの知恵を自らの生き方に生かそうとする態度を涵養することである。」

“郷土の歴史教育”アプローチ1

子どもたちにとって郷土の歴史を理解することは難しいと言われます。基礎知識が備わっていないからと思われます。歴史教育とは単に歴史的事象の伝達だけではすまないであろう。そこで、“郷土の歴史教育”をどうとらえ、子どもらに対峙したら良いのでしょうか。

2 子どもたちの生活舞台としての“やちよ”

八千代の郷土の歴史を学ぶにあたって、自らの地域や風土を理解し、自らの立ち位置を自覚できることは大切です。

- ①都心から30キロ圏内の奇跡
- ②八千代の田園風景・里山・谷津の風景
- ③豊かな自然と新しい街と融合した街づくり

3 八千代の子どもたちに伝えたい『愛と勇気のやちよの歴史』

“教育”の視点からみた、八千代の歴史を八千代の子どもたちに伝えたい。

- ①尽きることなし、縄文ロマン 黒潮渡る丸木舟 【歴史ロマンを語る】
- ②日本最古の鍛冶屋さん 沖塚式製鉄炉 【優れた技術力を誇りに思う】
- ③どんな願いが込められたのか 三千五百の墨書土器 【人情愛情の機微を語る】

- ④汗と涙と夢で掘り進めた 新川開削 244 年の物語 印旛沼堀割普請
【災害とたたかう姿勢と公共心】
- ⑤ええじゃないかの心意気 天下御免の大和田宿 【豊かな街づくりへの努力】
- ⑥大和田原から習志野原へ 篠原にならえ！ 【国民意識の一体感】
- ⑦八千代の戦跡をしのぶ 機友の執念 屠龍発掘 【国土を守る勇気】

“郷土の歴史教育” アプローチ 2

史実の伝達では理解し難いので、郷土の歴史的事象を子どもらの情意、感情をもととする価値観に訴える方法は、教育の視点からすればどこまで許されるのでしょうか。

4 八千代の教育コミュニティ 伝統的社会教育の場

八千代の伝統的地域コミュニティこそ“教育”の実践の場であったと考えてみましょう。

- ①お母様方の月待講 十九夜講
- ②皆と夜通し語り合う 庚申信仰と庚申塔
- ③おせったいを通して人情から学ぶ 吉橋大師講
- ④一家を支える覚悟として 奥州出羽三山講
- ⑤我等皆先生の門人たり 寺子屋と筆子塚
- ⑥不学の人ならしめんことを期す 150 年伝統小学校

“郷土の歴史教育” アプローチ 2

教育の場ととらえる伝統的地域コミュニティの思想から、現代的な社会教育力の改革・復権について考えてみてはいかががでしょうか。

「八千代の歴史と文化」

【八千代の景観】

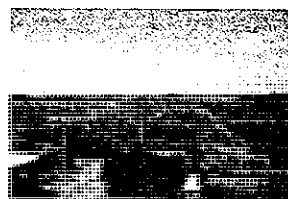
1. 豊かな里山と市街化の共存した街づくり
2. 八千代の歴史的景観 [八千代の由来・地名・シンボル]



大和田宿

【八千代3万年の歴史編】

1. 最先端ものづくり磨製石器 3万年前の狩人 —旧石器時代の八千代—
2. 尽きることなし、縄文ロマン 黒潮渡る丸木舟と貝塚 —縄文時代の八千代—
3. 大きな環濠集落 平和の象徴 田原窪遺跡 —弥生時代の八千代—
4. 日本最古の鍛冶屋さん 沖塚式製鉄炉 と 地域最大の前方後円墳＝根上神社古墳 —古墳時代の八千代—
5. 都からの流通銭貨 和同開珎 と 小金銅仏 菩薩様 —奈良・平安時代の八千代1—
6. どんな願いが込められたのか 三千五百の墨書土器 —奈良・平安時代の八千代2—
7. きり金りりしい釈迦如来様に祈る 鎌倉武士 —鎌倉時代の八千代—
8. 一所懸命の土地争い 室町幕府御教書 —室町時代の八千代—
9. 兵どもが夢のあと 米本城・吉橋城 —戦国時代の八千代—
10. 暮らしの平安を求めて —江戸時代の八千代1—
11. 汗と涙と夢で掘り進めた 新川開削 244年の物語 印旛沼堀割普請 —江戸時代の八千代2—
12. なりたみちにぎわう大和田宿 ええじゃないかの心意気 天下御免の大和田宿 —江戸時代の八千代3—
13. 脱走様の銃撃戦 八千代の戊辰戦争 —明治時代の八千代1—
14. 千葉県の変遷と八千代 —明治時代の八千代2—
15. 邑に不学の戸なく家に不学の人なからしめんことを期す 学制と八千代の学校 —明治時代の八千代3—
16. 明治6年大和田原大演習と天皇行幸 大和田原から習志野原へ篠原にならえ！ —明治時代の八千代4—
17. 八千代の自由民権運動 —明治時代の八千代5—
18. 習志野原の騎兵旅団 —明治時代の八千代6—
19. 八千代市域の日清・日露の戦跡を訪ねて —明治時代の八千代7—
20. 宿場町大和田のにぎわい「鶯や窓をひらけば竹の藪」正岡子規がやってきた!! —明治時代の八千代8—
21. 一生もの何でもの揃う商店街 「城橋銀座」 —大正時代の八千代1—
22. やちよのブランド梨 阿蘇梨 —大正時代の八千代2—
23. 大正15年大和田駅操業 京成電気軌道 —大正時代の八千代3—
24. 牛の角をかたどる大和田西小学校校章 八千代の酪農 —昭和時代の八千代1—
25. 八千代の戦跡をしのぶ畑に落ちた戦闘機 機友の執念 屠龍 発掘 —昭和時代の八千代2—
26. 住民が命名 新しい町 「八千代」の誕生 —昭和時代の八千代3—



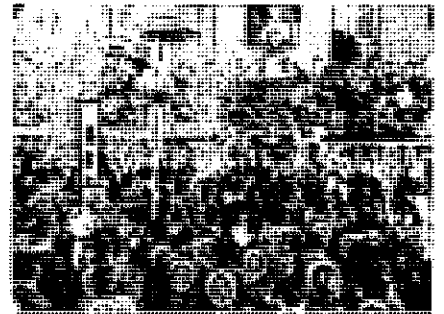
平戸・あさひ笠園から見る「八千代の絶景」

【民俗編】

27. ふるさと八千代・のこしたいもの、つたえたいもの

—八千代の民俗—

- ①古くからのこる建物
- ②昔ながらのふるさとの味
- ③昔から伝わる民俗芸能 = しし舞・村上のかぐら（湯立ての神事）
- ④昔から伝わる年中行事 = オビシャ・三山七年祭・飯綱神社三十三年祭
- ⑤各地にのこる道しるべ
- ⑥各地にのこる風習 = ツジギリ・ボンテン・十九夜講
- ⑦伝説のこる史跡 = 正覚院おしどり伝説・乳清水
- ⑧戦国の城跡 = 米本城址・吉橋城址



三山七年祭

28. 八千代が誇る文化財の数々

- ①佐山の獅子舞・勝田の獅子舞
- ②村上の神楽
- ③正覚院釈迦堂
- ④宝篋印塔
- ⑤羯鼓
- ⑥下総国印旛沼御普請堀割絵図
- ⑦戒壇石〔銘・禁芸術売買之輩〕
- ⑧七百餘所神社古墳
- ⑨根上神社古墳
- ⑩すわり地蔵
- ⑪下総式板碑
- ⑫雨乞い祈祷の絵馬
- ⑬村上綱清の墓石
- ⑭長福寺の板碑一括
- ⑮神馬の絵馬
- ⑯飯綱神社の玉垣彫物
- ⑰飯綱神社鐘楼
- ⑱飯綱神社本殿・拜殿・玉垣・参道石段
- ⑲イヌザクラ
- ⑳米本稻荷神社本殿
- ㉑天保七年米本村絵図
- ㉒高津のハツカビシヤ
- ㉓高津新田のカラスビシヤ
- ㉔石枕
- ㉕上谷遺跡をはじめ新川流域出土の祭祀関連墨書土器群



黒潮渡る丸木舟

尽きることなし、縄文ロマン

六千五百年前から五千五百年前の間、地球は間氷期となり、解けた氷河が海に流れ込み海水面上昇、関東平野では海水が内陸深く侵入しました。これを縄文海進と言いますが、この時期多くの貝塚が形成されました。新川も印旛沼から香取の海、そして太平洋へと繋がっていました。

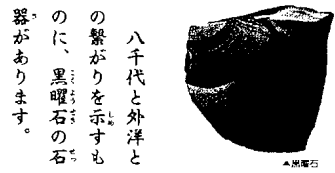
昭和25年に、印旛沼干拓工事現場で発見された丸木舟は、地表面から1.6m下の泥炭層から出土し、周辺から三千年前、縄文時代晩期の土器も出土しています。

この丸木舟を復元すると、全長6.7mで舟底には四箇所の横梁補強の跡が見られました。さて、八千代の縄文人たちは、この大型丸木舟をどのように使っていたのでしょうか。

日本の先史時代の丸木舟の発見例は、200例ほどですが、その内の100例あまりが千葉県内で発見されています。中でも九十九里の粟山川流域が多いのです。これは、縄文前期中葉に最大となった海進が、前期後半に海退に転じる中で、内湾的漁撈から外洋性漁撈へと転じて行った縄文人の暮らしが垣間見られるものです。



勇取ら
海幸彦が山見ら
黒潮の汁 神津島
星の石採る 縄文の
保の治まり
独木舟



「八千代の歴史と文化」のこしたいもの つたえたいもの
② 監修 小林 弘治
絵 小出 忠美

八千代と外洋との繋がりを示すものに、黒曜石の石器があります。八千代で発見された石器を調べてみると、東京都神津島産の黒曜石が使われていることも解りました。

銚子の粟島台遺跡では、楢形をした分厚い黒曜石器が出土、段間型籠状石器と呼ばれ、神津島から伊豆の見高段間遺跡を通る、黒曜石の交易ルートがあつたとされています。

毎時4kmで北上する黒潮分流を乗り切り、伊豆半島までの60kmの海路を漕ぎ渡つた縄文の人々。彼らが操る丸木舟には、尽きることのないロマンが積まれていたことでしょう。

沖塚式製鉄炉

日本最古の鍛冶屋さん

縄文時代晩期に伝来した、水田による稲作により、食料の安定供給と人々の定住化が弥生時代の幕開けとなりました。

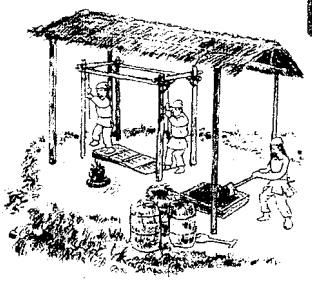
農作業の効率を上げるため、使用する道具も進化し、鋭利な磨製石器や高温で焼き上げられ実用的な土器「弥生土器」も作られるようになります。

地域社会では、強力な指導者のもとに共同で開拓や耕作を行うようになります。

中国の歴史書「魏志倭人伝」に名を残す、邪馬台国の女王「卑弥呼」もそのような指導者の一人でありました。

大陸から伝えられた先端技術、なかでも金属製の農工具は大変効率的でしたので、各地域で鉄に対する需要が増して来ると、鉄を加工する職人や、鉄そのものを生産する技術を持つ工人が求められるようになります。

平成二年、東葉高速鉄道の建設にもなう発掘調査が勝田台北西部、黒沢池付近の弥生時代中期から古墳時代前期にかけての遺跡「沖塚遺跡」で行われました。



「八千代の歴史と文化」のこしたいものをつたえたいもの
 ③ 監修 小林 弘治
 絵 小出 忠美

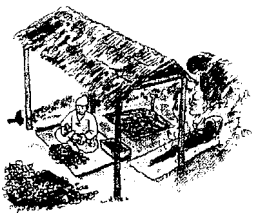
製鉄技術が必要な「精錬」が行われていた事が確認されました。

それまでに発見されている日本における鉄関係遺跡は、関西方面に多く、技術的にも初歩的なもので五世紀頃のものを中心でした。

三世紀後半、しかも高度な「精錬」を行っていたという沖塚遺跡の炉跡は特筆すべきものであり、日本最古級のものと言われています。

以後、六世紀の中葉まで、伊豫沼津岸に鍛冶集落が広がり、鉄器生産の中心を担ったと考えられています。

五穀吹く 龍神の住む 黒沢の環を穿つ 鉄の道
 弥生の人の 夢よ 遠か



三十五百の墨書土器

どんな願いが込められたのか

新川流域の遺跡群から、奈良・平安時代の墨書土器が三十五百点も見つかっています。

墨書土器とは、土師器や須恵器などの土器に文字や記号、稀に絵までが墨で書かれている土器のことです。

印旛沼と新川の合流点である係品地区の上谷遺跡では、高さ29cm最大幅24cmの甕形土器に、住所、氏名、目的、年号が墨書され、その横には髻を結った人の顔が描かれた土器が発掘されています。

この形の墨書土器は大変めずらしく国内唯一の発見例と言われています。

下総国印旛郡村上郷

丈部□刀自咩召代進上

延暦十年十月廿二日

と書かれています。神仏への祈願や救済を目的とした祭祀のために作られたのでしよう。

氏名の最初の丈部という氏は、中央の阿倍氏や膳氏の下でヤマトの王宮の警備や雑使を担当した軍事氏族であり、印旛郡の有力氏族としてこの地を開発統治していたものと考えられます。



鶴が鳴く

東の国の

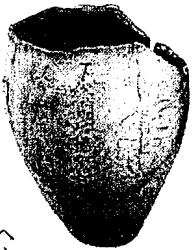
内海を

候見 渡らせよ

墨書土器

「八千代の歴史と文化」
のこしたくないもの
つたえないもの

④ 監修 小林 弘治
絵 小出 忠美



▲墨書土器

へと変わる頃であり、桓武天皇が軍制の改革を行ったり、坂上田村麻呂が東北の蝦夷を平定する、という時代です。

地名、人名、召代、進上という書式を持つ「多文字墨書土器」は、印旛周辺地域に特徴的なものですが、東北陸奥国府が置かれていた宮城県多賀城市の遺跡からも少量出土していることから、当時新川から内海を渡り、東北地方まで人々の交流があつたと考えられます。

遠く旅立つ人の安全を祈るのか、残る人の安寧を願うのか、我が身に代えても願う人の心は、昔も今も変わりありません。

都から遠く離れた東国のこの地にも、文字文化を身に付けた人々が、居住していたことに、多に啓蒙を受けるものです。

汗と涙と夢で掘り進めた

新川開削244年の物語

「八千代の歴史と文化」
のこしたいもの
つたえたいもの
④ 監修 小林 弘治
絵 小出 忠美

新川と花見川は千葉の横戸村を分水嶺として、印旛沼と江戸湾にそれぞれ流れていました。これを開削し、印旛沼の水を放出できれば、印旛沼周辺の洪水を防ぎ、新田開発も可能だと考えた人々がいました。

享保9年（1724年）平戸村の染谷源右衛門ら八名が印旛沼干拓を願ひ出ました。

幕府は治水工事の大家、井澤弥惣兵衛らに調査を命じます。約17kmに亘る開削工事には、30万両の費用が必要との見積りが出ますが、幕府は源右衛門に三千両を貸し付け工事を開始します。しかし資金が統かず工事は中止となりました。

二回目は天明年間、代官宮村孫左衛門の奨めで印旛郡草深新田各主香取平左衛門と島田村名立信田治郎兵衛の二人が自論見書を提出。工事は天明3年（1783年）に開始されたのですが、同6年の大洪水や事業の推進者であった老中田沼意次の失脚により再び中止されます。

三回目となる天保期の開削工事は、幕府が主体となります。アヘン戦争で清国が英國の半植民地となったとの情報を得た幕府は、外国艦船による江戸湾口封鎖への対処として利根川と江戸湾を結ぶ水路の確保を考えました。

天保14年（1843年）6月、利根川分水路印旛沼古城筋御普請御用の幕命が下り、鳥取、庄内、沼津、筑前秋月、上総貝洲の

五藩に対し、御手伝い普請の命が発せられます。工期は10ヶ月と予定されていましたが、鳥取藩が担当する花鳥観音堂下では化

灯土と言われる泥炭層により難航、庄内藩でも多くの人足が病に苦しみます。9月に

は老中水野忠邦が失脚、工事指揮者の藤田藤四郎も罷免されます。着工から90日あまりでこの一大事業も中止となりました。

明治25年、千葉県議會議員吉植庄之助や平戸村の植草兵左衛門の呼びかけにより利

根川治水協会が設置され印旛沼疎水計画が提案されるも実を結びず、事業は水資源開発公団に引き継がれ、昭和43年3月、染谷

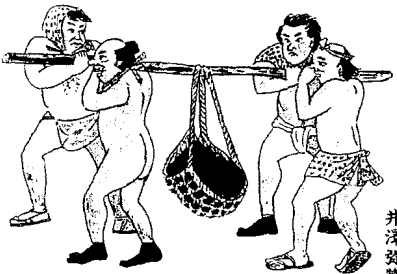
源右衛門の願いから244年の時を経て印旛沼疎水路は完成します。

平成3年、八千代青年会議所創立20周年事業で利根川から新川、花見川を通り東京

湾を廻る「新川水の回廊構想」が提言されました。この時のゲストが日本大学の伊澤

岬先生で、染谷源右衛門が調査に同行した

井澤弥惣兵衛との不思議な縁を覚えます。



くみてこて
むかしも
しのへ
ゆくりの
かえらぬ水に
うかぶ月かけ
水野忠邦 神世の句

ええじゃないかの心意気

天下御免の大和田宿

八千代市を東西に走る国道296号、通称「成田街道」は、江戸幕府の公式文書では「佐倉道」と呼ばれ、江戸と佐倉を結ぶ街道でした。江戸時代後期に成田山参詣が盛んになり、成田街道と言う愛称が付けられました。

交通網の整備には、時の権力者による統治という背景があり、江戸幕府も戦国時代の伝馬制度を拡充した宿駅制度により支配を行います。街道の重要度により、道中奉行の監督する五街道（東海道、中山道、甲州道中、日光道中、奥州道中）と、それに付属する諸街道は勘定奉行の取扱いとなりました。

東海道五十三次を題材とした浮世絵に、当時の宿場の情景がありますが、「宿」という呼称は、道中奉行の支配下にある五街道の駅を指すものでした。ところが市域に伝えられた寛文元年（1661年）の日付がある文書の中に「大和田宿」という文字が残されています。

この文書は勘定奉行から出されたもので、大和田駅が幕府の御用に対し、人馬の提供を行うことになり、不足分を近隣の五力村（宇那谷、花島、坪井、大神保、桑橋）に協力要請（助郷）しますが、五力村がこれに応じなかったので訴訟となりました。

「八千代の歴史と文化」
のこしたいもの ⑫
つたえたいもの 絵 小出 忠美

これに対する判決文の中に「大和田宿」という文字が記されていました。勘定奉行からの公式文書ですから、佐倉道における唯一の「宿」という格付けがなされた、ということになるわけです。

天保7年（1836年）に五街道に付属する脇街道と、水戸佐倉道が道中奉行の支配下に組み入れられますので、寛文元年の文書は、175年もの以前から宿と認めさせた大和田宿の人の心意気さを感じずにはいられません。

発端となった助郷制度は、交通量の増大とともに人馬後負担増となり、宿駅と助郷との間の紛争を生む矛盾を含むものでした。経済の発展は貧富の差を生み、庶民の不満は募るばかりです。

この様な時代に入々は信仰に名を借りた旅行に出て、解放感を得るようになります。伊勢参りや霊山登山、そして下総成田山参詣がこれにあたります。

権力者が整備した街道を庶民が活用したのです。

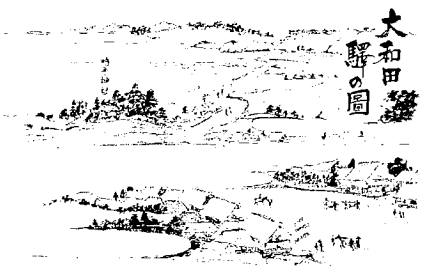
えび川の宿のほすれの

しむつての

左は大和田

三里半

十返舎一九



青年天皇は命じた

篠原にならえ!

大和田原から習志野原へ

戊辰戦争の後、日本の統治は徳川幕府に代わり明治政府が担うことになりました。

明治二年(1869年)に軍事を担当する兵部省が設置され、首都警護のため、薩摩、長州、土佐の三藩の兵により御親兵が編成されます。

明治四年には、幕府直轄の牧場が廃止され、軍の演習地となります。下総小金牧の一部であった大和田原もその一つでした。現在は習志野原と呼ばれ、自衛隊の演習場となっていますが、もともとは大和田原と呼ばれていました。何故習志野原と呼ばれるようになったのでしょうか。

明治五年、兵部省は廃止され、陸軍省、海軍省となり、御親兵は近衛兵と改称されます。

明治六年四月、158万坪を有する大和田原野営演習場で、近衛兵四個大隊2千800名による大規模な野営演習が行われました。

この演習を明治天皇が観閲、陸軍大將西郷隆盛が同行し、演習指揮官は、篠原固幹少将が任にあたりました。

演習中、明治天皇もテント下に野営されましたが、折り悪しく暴風雨に見舞

「八千代の歴史と文化」
のこしたものの
つたえたいもの
⑦ 監修 小林 弘治
絵 小出 忠美

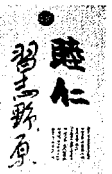
われ、西郷隆盛が心配の余り声をかけたと記録されています。

明治天皇はこの時22歳の青年期であり、篠原の指揮のもと、近衛兵の一糸乱れぬ演習に大変な感激をされました。そして並み居る将校たちに「篠原にならえ!」と何度も命じられたそうです。「ならえしのはらに」と...

演習に参加した兵士たちの士気は高く、同世代の天皇とともに新しい日本を創造するという気概に溢れ、それが見学者にも伝わったということです。

演習の翌月、明治天皇より演習地を「習志野原」と命名する旨の御触れが出されます。こうして大和田原は習志野原となったのです。

さて、この時の指揮官篠原固幹は薩摩の出身で、戊辰戦争では小銃三番隊長として活躍しました。西郷隆盛が従軍論を下野すると、それに続き、西南の役で政府軍と戦い、戦死しています。



夏草し
茂らざりけり
ものゝふの
道おこたらす
ならし野原
明治天皇御製
(明治20年)

八千代の戦跡を偲ぶ

機友の執念 屠龍発掘

「八千代の歴史と文化」
のこしたいもの
つたえたいもの

監修 小林 弘治
絵 小出 忠美

「国をうずめた日の丸の 歓呼の中に羽は
たいて わがニッポンはまつしぐら 6万キ
口の空を飛ぶ 空を飛ぶ」…これは昭和14年
8月26日、八試特偵を母体とした純日本式大
型双発飛行機「ニッポン号」が、世界一周、
36か国を歴訪し、親善を深めようと飛び立ち、
二ヶ月後の10月20日に、無事帰還した壮事を
讃えた歌です。

翌年の昭和15年は紀元二千六百年を祝う行
事が全国で催されました。しかし、この後、
日本は戦争の泥沼へと落ちて行くのです。

昭和16年12月8日の真珠湾攻撃で、太平洋
戦争に突入した日本は、はじめは東南アジア
の欧米植民地攻略など戦果をあげましたが、
次第に戦況は悪化して行きます。

日本本土爆撃を本格化させた米軍は、昭和
20年1月27日東京の中島飛行機武蔵製作所を
爆撃しました。このB29の編隊に対し、果敢
な体当たり攻撃を行った戦闘機がありました。
空冷複列星型14気筒エンジン搭載、最大
速度時速547km 実用上昇限度1万m 川崎航
空機製、一式複座戦闘機キ45改「屠龍」は本
土防空戦でB29攻撃に威力を発揮していま
した。

水戸陸軍飛行場を発進した屠龍は、午後
一時過ぎ、船橋上空でB29の編隊を捕捉、
37ミリ機関砲による前方攻撃に次いで、
反転、B29の後方より覚悟の体当たり
攻撃を敢行したのです。

この攻撃でB29は、酒々井伊藤に墜落、屠
龍も火を噴き、このままでは民家を直撃かと
思われたその時、屠龍は最後の力を振り絞る
ように、急旋回で回避、睦村神久保の水田に
激突、小林雄一軍曹と鯉淵夏夫兵長は戦死、
帰らぬ人となりました。

軍によつて機体の一部と鯉淵兵長の遺体は
収容されましたが、小林雄一軍曹と、残る機
体は地中深く残されたままでした。

そして、昭和20年8月、広島、長崎への原
爆投下。日本はポツダム宣言受諾、無条件降
伏することになります。

敗戦の混乱の中で、小林雄一軍曹と屠龍は
忘れ去られていました。否、少飛10期の機友
の地道な調査活動は続けられていたのです。

昭和55年に神久保の現場を確認、発掘の陳
情を行います。その願いが実現したのは、
平成8年9月19日でした。51年もの永い間、

地中深く眠っていた小林
軍曹の遺骨は、日の丸が
はつきりと判る機体ととも
に収容されました。

少飛10期の機友たちの戦争が
やつと終わつたのです。

体当りせし人 二十と十八
聞きアむわ行つ 老残のわれ
五十年を泥に埋まりし

なまがら上

視目覚めつつ 何見給うや

―戦友の詠める歌より―



寺子屋と筆子塚

我等皆先生の門人たり

明治5年(1872年)に学制が発布されるまでは、武士階級の子弟は藩校で、庶民の子どもたちは、寺子屋や私塾で教育を受けていました。

八千代市内地域では、享保年間に麦丸の東福寺で寺子屋を、平戸の旗本(徳川将軍の直屬家臣で禄高一万石以下)の娘が家塾を開いていたとされています。幕末から明治初期にかけては、大和田宿枳屋の経営者であった大沢小十郎や大和田新田の名主小林佐四郎、高津親音寺の徳島真龍、荳田の河野又右衛門、そして吉橋の高橋縫之助、桑橋の村山清兵衛、島田の名主信田治郎兵衛、神久保の山口利右衛門、真木野の山崎弥兵衛、佐山の花沢与兵衛、神野の名主小名木四郎右衛門など、市域の各所で寺子屋が開かれていました。

江戸時代、一般的には、筆子(生徒)は8、9歳ごろから約4年間教育を受け、いろは歌など初歩的な読、書、計算から始めて、農業往来物や天文、武道、裁縫などを学びました。束脩(授業料)は月に天保銭3枚ほどで、入塾時や盆、正月には米や酒を納めたようです。

先生との師弟関係は卒業してからも続き、師匠への敬愛の念が、師の没後、門人たちによる筆子塚の建立という形で残されています。

「八千代の歴史と文化」
のこした
つたえたいもの

⑩

監修 小林 弘治
絵 小出 忠美

市域には35あまりの筆子塚が確認されていますが、千葉県内には3千300あまりの筆子塚が確認されているそうです。子どもの教育への感心の高さが伝わります。

「なまけるな イロハニホヘト散桜」
これは小林一茶が文化15年(1818年)11月によんだ句です。雪国では寒習いと云つて冬にしか寺子屋が開設されない所もあり、この間にしつかり「イロハ」を覚えなさいと一茶は言っています。桜が散る頃になれば、子どもたちも田畑の作業に駆り出され、勉強どころではありません。そして年頃になれば年季奉公に出され、そこで読み書きができなければ、馬鹿にされ、給金も日頃の扱われ方にも差が出るのです。

江戸化政期に刊行された庶民向けの書籍には漢字にふりがなが出る場合があります。片仮名や平仮名を覚えておけばなんとかなるよと、自身15歳で江戸に奉公に出された一茶は言っているのです。寺子屋には、父母の切ない思いも籠っていたのではないのでしょうか。



▲筆子塚

